

こうよう
紅葉の季節になりました。 くれない 紅の葉と書く言葉には二つの意味があります。

「こうよう」と読みますと、秋に野山の木々の葉の色が あか 紅や黄色などに変わることを指し、「もみじ」と読むと、カエデ科の樹木の名称を指します。ただし、葉が五つ以上に割れているのが「もみじ」、それ以外を「かえで」と言っているようです。

平成九年に「高齢運転者標識」が制定され、その色使いから「もみじマーク」と呼ばれました。初心運転者標識である「わかば若葉マーク」に対して、秋の こうよう 紅葉をイメージした、熟練した高齢運転者を表現したものだそうです。

しかし、落ち葉や枯れ葉に見えるなどの批判が強かったことから、平成十三年より現在の四つ葉のクローバーにシニアのSを図案化したものになりました。

単純に、高齢者を落ち葉や枯れ葉にたとえることが問題であるだけでなく、 こうよう 紅葉をする樹木の四季を人生に重ね、芽吹く春を ようねんき 幼年期、青葉を茂らせる夏を せいねんき 青年期、 こうよう 紅葉の秋を ろうねんき 老年期と考えると、次に待っている、枯れて葉の落ちる冬を死と考え、マイナスのイメージに映るのかもしれない。

しかし、この四季の移ろいは、まさにお釈迦さまが説かれた「諸行無常」です。すべてのものは移ろいゆく。生じ、そして めつ 滅する。季節の移ろいが、我々にそれを気づかせてくれているかのようです。無常であると気づけるからこそ、人との出会いを大切にし、日々の営みを丁寧に、心を込めて行うことができるのです。

また、落ち葉の冬の後には春が訪れ新たな若葉を茂らせます。そのサイクルがいのちのつながりとなるのです。私たちの人生は、死に向かって歩んでいるものかもしれませんが、それは新たな若葉の季節にいのちをつなぐために生きているとも言えるのではないのでしょうか。

そう考えると、もみじマークが枯れ葉や落ち葉に見えたとしても、いのちをつなぐために精一杯生きた尊い姿と考えることができるのです。